

## 地域をともに創る人を育む

「地域における人材の育成」、「地域コミュニティ組織等への支援」、「社会福祉法人・学校・事業所等の地域貢献の促進」、「福祉人材の養成と資質の向上」、「福祉への理解を深める取組みの推進」に取り組むことで、地域をともに創る人を育みます。

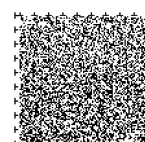
なお、「支え手」「受け手」という関係を超えて、誰もが地域の担い手であるという視点ももって、取組みを進めます。

### (9) 地域における人材の育成

【地域活動等の担い手不足】に対応するため、地域とつながり、主体的に活動に参画する人が増えるよう、活動の魅力の発信や研修会を開催するなど、地域における人材の育成に取り組めます。

#### 地域住民等ができること

- どのような地域活動等が行われているかの把握に努めます。
- 各種研修などに主体的に参加します。
- できる範囲で自分に合った活動に参加します。
- 活動内容や活動の楽しさ、やりがいなどを周囲の人に伝える努力をします。
- 周囲の人を誘って様々な集まりや行事・活動に参加します。
- 幅広い人脈やネットワークづくりに努めます。
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、利用者・学生・被雇用者などが地域の活動に参加しやすい環境の整備に努めます。



## 校区の将来をみんなで考えよう

大橋校区では、支え合い推進会議の取組みの中で、支え合いについて関心がある人や、「できることを無理なくしていきたい」、「日常の声かけから始めていきたい」といった前向きな思いをもっている人が多いことが分かりました。

そこで、新たな担い手を募ることを目的とした生活支援ボランティア養成講座が実施され、さらに実際に活動できる人を対象とした座談会が開催されました。



座談会での話し合いの様子



座談会での発表の様子

座談会では、自治会ごとにグループに分かれ、意見交換をし、「まずは、地域住民同士が顔馴染みの関係になること、さらには助けてと言いつける関係になることが大事」など、具体的な意見が出され、活発な協議の場となりました。

生活支援ボランティア団体の立ち上げに向けて、できることから進めています。

## ボランティア活動のサロンへの展開

「ボランティアの成り手が少ない」と言われる中で、新たにボランティア団体が結成されました。

くるめ蕎麦打ち迷人の会とかっぱコーヒーの会は、ボランティア活動をしたけれど、なかなか活動に踏み出せなかった人たちが、蕎麦やコーヒーをとおして地域貢献するために



サロンで蕎麦打ち体験

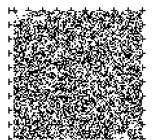
立ち上げた団体です。

主に地域で開催されているいきいきサロンや各種イベントの参加者に楽しんでもらおうと活動しています。

ボランティアの皆さんは、日々練習や話し合いを重ねており、参加者の笑顔を自分たちの生きがいに換え、今後も地域とともに活動していきます。



つつじマーチでコーヒーのふるまい

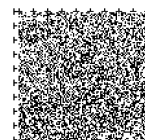


## 久留米市社会福祉協議会が取り組むこと

- 地域住民を取り巻く課題の複雑化、多様化に対応していくために、校区社会福祉協議会連合会と連携しながら、校区社会福祉協議会相互の情報交換ができるよう支援します。
- より多くの地域住民等が地域福祉活動に参加できるよう、地域の実情に合ったボランティア養成講座などの開催を支援します。
- 地域で活躍できる人材を養成し、ボランティア団体の組織化を支援します。
- ボランティア団体に対して、相談支援や財政的支援を行います。
- ボランティア団体の連携を促進するため、ボランティア連絡協議会の運営を支援します。
- 地域には、担い手になり得る人や地域での活動や活躍を望む人がいることに留意し、新たな人材の確保・育成に取り組みます。
- 地域住民の役割を「支え手」と「受け手」に分けず、本来、その両面を合わせもっていることに留意し、多様な人材の確保・育成に取り組みます。

## 久留米市が取り組むこと

- 日頃からの近所付き合いや自治会の必要性の周知、自治会への加入促進、地域行事や地域活動等に関する情報提供、支え合い推進会議への支援などを行い、担い手の確保・育成を支援します。
- 各種担い手の養成講座の実施や地域活動等の活性化などにより、担い手の確保・育成を支援します。
- 包括的支援体制構築事業などをとおして、人々の緩やかなつながりの中から担い手が育つよう支援します。
- 「個別支援の成果や課題を活かした地域づくり」と「地域力強化による個別課題の早期発見・早期解決」を循環させ、地域住民等の課題解決力を向上させることで、担い手の確保・育成につながるよう取り組みます。



## (10) 地域コミュニティ組織等への支援

【地域防災力の強化】、【地域住民等への支援の強化】、【情報が適切に入手できていないこと】に対応するため、地域活動等を推進しやすい環境の整備を行うなど、地域コミュニティ組織等への支援に取り組みます。

### 地域住民等ができること

- 様々な集まりや行事・活動に積極的に参加します。
- 子どもたちへ地域や自治会の大切さを伝えます。
- 主体的な地域活動等の実施に努めます。
- 自治会への加入を促進します。(加入しやすい自治会と参加しやすい自治会活動をめざします。)
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、地域コミュニティ組織やNPO・ボランティアなどの活動に関心を持ち、協力を努めます。
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、利用者・学生・被雇用者などが、地域コミュニティ組織やNPO・ボランティアなどの活動に関心をもつよう、啓発に努めます。

### 引っ越してきた世帯との関係づくり

三潞校区早津崎自治会の区域は、その立地の良さも手伝って、転入者が多い地域です。自治会に加入した転入者が早く地域に馴染み、地域に愛着をもってもらえるよう、初めての自治会の総会のときには、なるべく家族全員で参加してもらい、自己紹介などをして、早津崎産のおいしい米を贈っています。

このような工夫から、地域の子どもと大人が明るくあいさつを交わし合う地域となり、地域の清掃活動やグラウンドゴルフ大会などのときには、家族全員で参加する世帯もあるとのこと。

この関係が、日常生活だけでなく、災害時の支え合いにつながることは言うまでもありません。

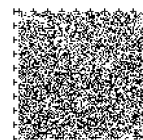
自治会加入をきっかけとして、地域の人と人が“顔の見える関係”でつながり、日常生活の中で何気ない支え合いが行われています。



グラウンドゴルフ大会の様子

### 久留米市社会福祉協議会が取り組むこと

- 地域住民主体の活動が、地域の実情に則して安定的に運営できるよう支援します。



- 地域における支え合う意識の醸成及び地域福祉活動の充実や新たな活動づくりを支援します。
- 生活支援コーディネーターを配置し、支え合い推進会議などの運営を支援します。
- 久留米市社会福祉協議会ボランティアセンター運営とボランティアコーディネーター配置により、ボランティアが活動しやすい環境の整備に取り組みます。

### 久留米市が取り組むこと

- 各種研修などの実施や相談支援体制を整えることで、知識・スキルの向上や活動における不安を解消し、活動しやすい環境の整備を推進します。
- 日頃からの近所付き合いや自治会の必要性の周知、自治会への加入促進、地域行事や地域活動等に関する情報提供、支え合い推進会議への支援などを行い、活動しやすい環境の整備を推進します。
- 地域活動等の活性化などにより、活動しやすい環境の整備を推進します。
- 市民活動・絆づくり推進事業や包括的支援体制構築事業などをとおして、人々のつながりを構築し、活動しやすい環境の整備を推進します。
- 「個別支援の成果や課題を活かした地域づくり」と「地域力強化による個別課題の早期発見・早期解決」を循環させる中で、地域住民と専門職との連携を図り、活動しやすい環境の整備を推進します。

### 補助金をきっかけに活動が広がる

久留米市では、地域住民等との協働によるまちづくりを進めるため、久留米市市民活動・絆づくり推進事業で市民活動団体に対する財政的支援を行っています。

多胎児育児を支援しているツインズクラブは、この補助金を活用し、ふたごやみつごを育てる家庭の保護者同士の交流を行っており、多胎児育児の悩みが少しでも軽くなるように活動しています。

また、全国ギャンブル依存症家族の会福岡はギャンブル依存症に悩む家族からの相談を受けたり、ギャンブル依存症についての予防啓発に取り組んだりしています。

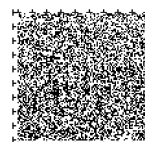


ギャンブル依存症についての研修会

行政だけでは、地域住民等の細やかなニーズに対応することは難しいため、市民活動団体を財政的に支援することで、新たな活動が芽生えたり、既存の活動が発展したりするなど、様々な分野に活動が広がり、協働のまちづくりが進んでいきます。



ツインズクラブの皆さん



## (11) 社会福祉法人・学校・事業所等の地域貢献の促進

【複合的な課題や制度の狭間の課題等】、【地域住民等への支援の強化】、【情報が適切に入手できていないこと】に対応するため、多様な主体が連携して活動できるよう、社会福祉法人・学校・事業所等の地域貢献の促進に取り組みます。

### 地域住民等ができること

- 社会福祉法人・学校・事業所等とともに取り組みたいことを提案します。
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、貢献できることの情報発信に努めます。
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、地域と顔の見える関係をつくり、協働します。

### 遊んで、食べて、みんなが笑顔

「もう1回やりたい」、「焼きそば美味しい」

御井校区コミュニティセンターで、久留米大学の学生たちが企画した子ども食堂が開催されました。

小学生が大学生と楽しく過ごす夏休みの思い出づくりをコンセプトに“おもいで食堂”と名づけ、学生たちが縁日にありそうなゲームや食べ物を考え、子どもたちに喜んでもらえるよう、すべて手づくりで準備しました。



射的で遊ぶ子どもと大学生

御井小学校の協力のもと、当日は多くの子どもが集まりました。食事は、様々な団体から寄付していただいた野菜やお米を使い、また、一度に大量の食事をつくったことがない学生たちは、御井校区ふれあいの会の会長の協力を得て、焼きそばとおにぎりを調理しました。

大学生と小学生がともに遊び、同じごはんを食べ、笑顔あふれる一日となりました。大学が地域とつながることで、新たな出会いや居場所づくりのきっかけとなっています。

### サロン×移動販売

江上校区では、「店が遠くて買い物に行けない」、「買ったものが重くて運べない」など、高齢者の困りごとが挙がっていました。

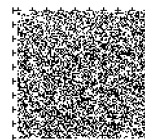
そこで、“高齢者が集う場”と“買い物支援事業”を組み合わせるのが金曜サロンです。毎月第4金曜日に江上校区コミュニティセンターで開催され、移動販売車が訪れると、多くの地域住民でにぎわっています。

地域住民の困りごとと、力になりたいという事業所の思いがつながり、新しい支え合いが生まれました。

地域住民だけでは解決できない困りごとがあっても、まちな商店などと協力しながら、取組みが進められています。



買い物を楽しむ地域住民



## 久留米市社会福祉協議会が取り組むこと

- 社会福祉法人・学校・事業所等の優れた地域福祉活動の取組みを社会福祉大会などの機会を活用して、広く発信します。
- 「ライフレスキュー久留米連絡会※」の事務局を担い、社会福祉法人の相互の連絡調整や交流を図り、「地域における公益的な取組」を促します。
- 社会福祉法人・学校・事業所等と地域コミュニティ組織などが、連携して地域福祉活動に取り組むことができるよう働きかけます。

### あなたの“困った”をみんなで助けます

近年、生活困窮、孤立死、DVなど、既存の制度では対応できない課題を抱える人も少なくありません。

社会福祉法人で組織するライフレスキュー久留米連絡会では、制度の狭間で困っている住民の困りごとが解決できるように社会福祉法人が連携する社会貢献の取組みを行っています。

生活環境の改善が必要な40歳代のひとり暮らしの男性の事例では、社会福祉法人が連携して、自宅の環境を整えました。

その後は、本人が清潔な環境を維持し、少しでも元気に生活できるよう、法人からの生活用品の提供や就労のための施設見学などの支援を行ってきました。

今後も、制度の狭間の課題を抱える人に対し、社会福祉法人の専門性や強みを活かしながら支援し、さらには地域の団体との連携やネットワークを構築していくことをめざしていきます。

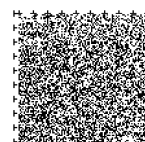


自宅の環境整備の様子



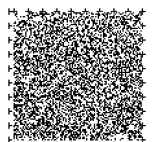
生活用品受入れの様子

※ ライフレスキュー久留米連絡会：ライフレスキュー事業（社会福祉法人がネットワークを構築し、それぞれの専門性を活かして、生活困窮などの様々な課題を解決することを目的とする事業）の目的に賛同する久留米市内の社会福祉法人を会員とする団体。



## 久留米市が取り組むこと

- 社会福祉法人・学校・事業所等に対して、地域とともに歩むことの必要性などについて周知します。
- 社会福祉法人・学校・事業所等に対して、地域生活課題の解決に向けた社会資源の創出や保有する知識・スキル・ノウハウなどを活かした地域貢献活動の実施を促進します。
- 社会福祉法人に対して、「地域における公益的な取組」を周知・啓発し、その支援に取り組みます。





## (12) 福祉人材の養成と資質の向上

【相談しづらいこと】、【複合的な課題や制度の狭間の課題等】に対応するため、福祉分野への就業促進・継続就労支援・専門知識や技術習得の支援を行うなど、福祉人材の養成と資質の向上に取り組みます。

### 地域住民等ができること

- 福祉の仕事の必要性・重要性を理解します。
- 各種研修などに声をかけ合って参加し、知識と人権感覚・意識の向上に努めます。
- 福祉の事業所・施設などは、施設の様子や活動を広報し、人材確保に努めます。
- 福祉の事業所・施設などは、継続的に就労できるよう職場の環境整備に努めます。
- 福祉の事業所・施設などは、各種研修などの開催や事業所相互の情報共有によって、職員の専門知識と人権感覚・意識の向上を図ります。
- 福祉の事業所・施設などは、地域との交流や連携に努めます。
- 福祉の事業所・施設などは、実習生を積極的に受け入れます。

### よりよい介護サービスが提供できるように

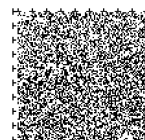
久留米市及び近郊の介護事業者が集まって設立された久留米市介護サービス事業者協議会では、介護サービス事業所職員の知識や技術の向上、職員定着率の向上をめざし、様々な研修を行っています。

「介護現場におけるコミュニケーションの基本について学べた」、「振り返りができ、現場で使える知識や技術を得られた」など、研修の場で得られたものが、日頃のサービスの質の向上につながっています。

介護現場における人材不足が大きな課題となっていますが、こういった研修の場が、介護の仕事への不安を減らし、介護の職場の魅力を発信する場となり、新たな人材の発掘（職員の定着）につながっています。



研修会の様子



## 久留米市社会福祉協議会が取り組むこと

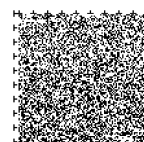
- 福祉人材バンクで求人・求職の情報を提供し、求人事業所と求職者を結びつけます。
- 福祉のしごと就職フェア、福祉入門講座、学校訪問などを実施し、幅広い人々が福祉への理解を深め、関心をもてるよう努めます。
- 福祉に携わる関係者のスキルの向上につながる学習機会の確保・提供に努めます。
- 専門知識と人権感覚・意識を備えた久留米市社会福祉協議会職員の育成に努めます。

## 久留米市が取り組むこと

- 福祉を担う人材の養成・福祉分野への就業促進のため、福祉の仕事の魅力を発信するとともに、継続的に就労できるよう、福祉の事業所・施設などに対して職場環境の改善について働きかけます。
- 各種研修などの実施や相談支援体制を整えることで、専門職のスキルの向上を支援します。また、福祉の事業所・施設などの適正運営を推進することにより、質の向上を支援します。
- 「共生型サービス※」の拡充に向けて、福祉の事業所・施設などへの周知・啓発を行うとともに、福祉を担う人材のスキルの向上を促進します。
- 専門知識と人権感覚・意識を備えた久留米市職員の育成に努めます。

---

※ 共生型サービス：「介護保険」と「障害福祉」どちらか一方の制度指定を受けている事業所が両方の制度の利用者に同じ空間で一緒に過ごせるよう、一体的にサービスを提供すること。



### (13) 福祉への理解を深める取組みの推進

【支え合う意識やつながりの希薄化】、【地域活動等の担い手不足】に対応するため、福祉教育をとおして、思いや体験を共有するなど、福祉への理解を深める取組みを推進します。

#### 地域住民等ができること

- 一人ひとりの生活を認め合います。
- 家庭内で人権や福祉について考え、意識を高めます。
- 各種研修などに周囲の人を誘って参加し、人権や地域、福祉に関する理解を深めます。
- 年齢や性別、障害の有無や国籍、生育環境や経験に関わりなく、様々な人と交流し、思いや体験の共有に努めます。
- 多様な人や団体と連携しながら、既存の活動や行事などを活用し、福祉教育の推進に努めます。
- 社会福祉法人・学校・事業所等は、福祉教育の実施・推進に努めます。

#### 地域のいいね（ひとにやさしい場所）を教えてください

障害がある子とその親が、地域とつながり、ともに生きることをめざして活動している団体、輪をつくろうは、江南中学校区で障害者・高齢者・子どもなど、誰にとっても「いいね」と思える場所、人にやさしいお店を掲載した“地域いいね MAP”をつくりました。

地域の皆さんの協力で完成した地域いいね MAP は、



MAPづくりのための話し合い

子どもたちの手で、

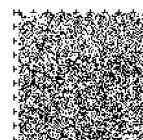
掲載されたお店やコミュニティセンターなど、多くの場所へ届けられました。

この地域いいね MAP が、地域にある様々な場所、いいところを知るきっかけとなり、人や地域とのつながりをより一層深めています。

現在は、「自分たちの地域でもつくりたい」と、取組みが広がっています。



魚屋さんに地域いいね MAP を届けているところ



## 久留米市社会福祉協議会が取り組むこと

- 人権に関する教育や受援力を高める教育を推進します。
- 各種研修をとおして、地域福祉活動の目的や重要性などを周知し、福祉への理解を促進します。
- 市内の幼稚園・保育園・小中高等学校・特別支援学校を社会福祉協力校に指定し、ともに福祉教育に取り組みます。
- ゲストティーチャー※の派遣、福祉教育のプログラムの提案、福祉教材の提供などをとおして、福祉教育の機会づくりに取り組みます。
- 校区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会などと連携し、地域と学校がともに進める福祉教育の場づくりを支援します。

### 福祉を学ぶ機会を

久留米市社会福祉協議会では、障害のある人など様々な立場の人の思いを知るため、学校や事業所において、車いすの操作体験や、アイマスクでの歩行体験、さらには、ゲストティーチャーを招いての福祉教育を進めています。擬似的に体験するだけでなく、障害のある人の体験や思いを直接聞くことで、想像力が高まり、理解につながります。

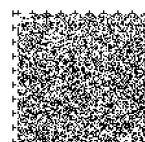
福祉教育は、出会いや関わりをとおして、人と人とのつながりの重要性に気づき、自分と違う立場の人を認め合い、ともに生きていく力、人の気持ちに共感できる力、考えを共有し実行する力などを育むことをめざしています。

今後、そうした気づきなどがより一層広まるよう、福祉教育の充実等について検討していきます。



ゲストティーチャーの講演

※ ゲストティーチャー：指導者として特別に学校や事業所等に招かれた地域住民。



## 久留米市が取り組むこと

- 人権に関する各種研修などを実施し、人権に対する正しい理解を広めます。
- 福祉の重要性の周知など、福祉教育に取り組み、将来にわたる継続的な地域福祉の推進につなげます。

### お互いを尊重する職場をめざして

企業も社会を構成する一員として、人権を守る社会をともに創り出していくことが求められています。

久留米市では、講師の紹介や研修教材（ビデオ・図書の貸出しなどを行い、人権教育及び人権啓発の取組みを促進しています。その内容は、同和問題をはじめ、男女平等や各種ハラスメント、性的少数者に関すること、認知症や虐待、外国人労働者に関することなど企業の希望に応じ、様々です。

最近では病院や福祉施設などへの研修の機会も多くなってきました。すべての人の人権が尊重される職場をめざして、今後も当事者の声や思いなどを伝える機会をつくっていきけるよう働きかけていきます。



研修で近くの人と意見交換をする様子

